

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間: 令和2年4月～令和8年3月(6年0月)

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市では、第 1 期計画(平成 22 年 11 月～平成 26 年度)において、川西能勢口駅周辺の商業施設のリニューアル、イベントの実施などを行い、第 2 期計画(平成 27 年度～令和元年度)では、中央北地区特定土地地区画整理事業によりキセラ川西せせらぎ公園、文化ホールや福祉・保健・公民館機能が連携した複合施設、民間の大型商業施設などのキセラ川西地区の整備を進めてきた。第 3 期計画(令和 2 年度～令和 8 年度)では、川西能勢口駅周辺とキセラ川西地区の回遊性の向上や、働く場所や魅力的な場所を増やすことで様々な人が活躍する中心市街地を創造し、持続可能なにぎわいにつなげることを目標としてきた。

令和7年度は、令和 6 年度に引き続き、日常的なにぎわいを生み出し、経済活動を重ね、まちのプレイヤー同士のつながりづくりや発掘を促進し、市民が主体となってまちのにぎわいを作り出すため、ソフト・ハード両面において様々な取組を展開した。

ソフト事業では、令和 6 年度に引き続き、川西能勢口駅のペDESTリアンデッキをイベント活用する社会実験を 3 回開催した他、他主体によるデッキ活用イベントも多数行われ、パブリックスペース活用の動きが広がってきている。また、令和 5 年度から始まった駅前中心市街地活動拠点の運営について、来室者数と交流スペースの予約件数は年々増加傾向にあり(令和 7 年度来室者数:4,451 人・予約件数:279 件、令和 6 年度来室者数:3,905 人・予約件数 233 件)、市民の活動や交流が盛んに行われ、新たな事業が生まれるきっかけとなっている。

ハード事業では、令和 6 年度に川西市コミュニティパーク整備事業が完了し、駅前商業施設であるアステ川西内に子育て世代を中心に多様な方々が集い憩えるよう、子どもが遊べるよう遊具を設置し、ぴいぶう広場のリニューアル整備を完了したほか、大型ビジョンを設置するなど、中心市街地における滞留性の向上、魅力の向上につながっている。これにより、居住人口、地価ともに顕著に上昇すると共に、複数の民間マンション建設が進められるなど今後においても居住や出店ニーズの高まりが期待される。

【**中心市街地の状況に関する基礎的なデータ**】

(1) **居住人口**

(基準日：毎年度3月31日)

(中心市街 地区域)	令和元年度 (計画前年 度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
人口	8,769	8,763	9,116	9,124	9,164	9,379	9,502
人口増減数	-32	-6	353	8	40	215	123
自然増減数	-57	-46	-41	-65	-68	-47	-57
社会増減数	33	32	415	111	175	221	165
転入者数	395	403	674	493	514	593	577

(2) **年間販売額（小売業）**

(単位：百万円)

(中心市街 地区域)	平成30年度 (基準値)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
市全体	133,905	133,905	133,905	133,905	133,905	131,272	131,272	131,272
中心市街 地	45,645	45,645	45,645	45,645	45,645	43,667	43,667	43,667

※最新値である「経済センサス活動調査（令和3年度）」より。

(3) **商店数（小売業）**

(単位：件)

(中心市街 地区域)	平成30年度 (基準値)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
市全体	655	655	655	655	655	629	629	629
中心市街 地	192	192	192	192	192	204	204	204

※最新値である「経済センサス活動調査（令和3年度）」より。

(4) **事業所数（宿泊業・飲食サービス業）**

(単位：件)

(中心市街 地区域)	平成30年度 (基準値)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
市全体	502	502	502	502	502	424	424	424
中心市街 地	144	144	144	144	144	123	123	123

※最新値である「経済センサス活動調査（令和3年度）」より。

(5) 地価

(単位：円/㎡)

(中心市街 地区域)	平成30年度 (基準値)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
相 続 税 路線価平均	—	—	238,750	247,500	258,750	265,000	275,000	283,750
アステ川西 東 側	340,000	380,000	420,000	440,000	450,000	460,000	480,000	490,000
県道12号線 川西市役所 西交差点北	210,000	215,000	235,000	240,000	245,000	250,000	260,000	270,000
川西市役所前 交 差 点 北	165,000	170,000	185,000	185,000	185,000	190,000	195,000	200,000
豊川橋山手線 (オアシス タウン南)	—	—	115,000	125,000	155,000	160,000	165,000	175,000
地価公示平均	359,000	394,000	430,000	448,500	463,000	475,000	488,500	503,500
川 西 5-1	445,000	500,000	550,000	575,000	593,000	607,000	623,000	640,000
川 西 5-4	273,000	288,000	310,000	322,000	333,000	343,000	354,000	367,000

※調査基準日：各年1月1日、公表：地価公示3月下旬、相続税路線価：7月1日

※豊川橋山手線（オアシスタウン南）の相続税路線価：平成30年度及び令和元年度は路線価算定対象外。

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)**【進捗・完了状況】**

- ①概ね予定通り進捗・完了した ②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

- ①活性化した
②若干活性化した
③計画策定時と変化なし
④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2. における選択肢の理由)

重要なにぎわいに係る事業は実施できたため、概ね順調に進捗したといえる。

一方で、中心市街地の居住人口の社会増については、目標 194 人/年(R2～R7 平均)に対して、実績 187 人/年(R2～R7 平均)と僅かに届かなかったが、市内全体の居住人口が少子高齢化による減少傾向が続いている中で、中心市街地の居住人口については、増加傾向を維持できている。

しかしながら、その他の目標指標(歩行者・自転車通行量/新規起業者数/新規出店数)については、川西能勢口駅周辺やキセラ川西周辺の2つの大きな拠点において、特長を生かしたにぎわいづくりを行ったことで、駅周辺とキセラ川西双方の行き来をせずとも活性化ができており、達成している。

こうした状況から、中心市街地の居住人口の社会増は目標値の達成はできなかったものの、その他の指標では、通行量の増加(目標値に対して約 104%達成)や新規出店数の増加(目標値に対して約 160%達成)など、街に活気は出てきており、中心市街地は活性化できたと考える。

今後は、駅周辺とキセラ川西の2つの拠点に加え、エリアごとの特長を生かしたにぎわいを生み出し、そのにぎわいをつなぐことで、中心市街地全体の活性化を底上げしていくことが必要である。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

中心市街地活性化協議会では、関係団体等と協議・調整を重ねながら、様々な提案や実施を行った。

計画中に、JR 川西池田駅-阪急川西能勢口駅連絡橋屋根更新工事事業が完了し、歩行者の快適な通行と安全性を向上させ、中心市街地全体の回遊性が向上した。また、駅前商業施設内をリニューアル整備したことにより、中心市街地における子育て世帯の滞留性の向上につながったことから、今後も持続できるように、さらなる魅力向上と発展に努める。

また、中心市街地空き店舗等出店支援補助金では、複数の飲食店・小売店の魅力の向上を支援するなど、中心市街地への来街目的が増加し、まちの魅力が向上している。

歩行者・自転車通行は、全体でみると計画期間内で増加しており、特に「駅前ピクニックマルシェ」と題して当協議会主催で社会実験を開催したことが奏功し、まちなかプレイヤーの発掘と他主体によるデッキ活用イベントの促進に繋がった。これにより、川西能勢口駅南北の歩行者デッキでは、基準値と比べて通行量が 10～20%程度増加した。

協議会としても、これまで培ってきた関係団体との協議・調整の経験を活かし、さらに魅力と活気あふれるまちづくりを推進していきたい。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

計画期間前後で、「雰囲気がちょうどいい」や「色んな店があり楽しい」という市民意見が最も向上した。また、「歩いて回りたくなる」や「いつも人が集まっている」といった声も向上しており、中心市街地の魅力が市民に伝わり、中心市街地の活性化に繋がっていることが分かった。

一方で、「用事がなくても来たい」や「事業や活動を始めたい」という質問については、市民意見が少なかった。目的を持った人たちは来訪しているが、日常生活の中で自然と立ち寄る場所としての地位確立までには至っていないため、さらなる日常的なにぎわいを創出し、中心市街地の活性化に取り組む必要がある。

川西まちなか滞留実感調査

調査日：2025年10月

調査方法：調査地点を通行する歩行者

有効サンプル数：約200人

※項目ごとに、5点満点換算で平均値を算出

川西まちなか滞留実感調査（まちなかに感じていること）
[当初と比較するため、2020年10月実施分も掲載]

質問	項目	2020年	2025年
1 歩いて回りたくなる。	回遊性	3.0	3.2
2 いつも人が集まっている。	にぎわい	3.2	3.3
3 色んな店があり楽しい。	多様性	3.3	3.6
4 買い物に便利で助かる。	利便性	3.9	4.1
5 自然を身近に感じる。	自然環境	3.3	3.1
6 ゆっくりとすごしたい。	滞留性	3.2	3.4
7 用事がなくても来たい。	魅力度	2.7	2.4
8 雰囲気がちょうどいい。	イメージ	3.6	3.9
9 ここで暮らしてみたい。	居住志向	3.5	3.6
10 事業や活動を始めたい。	事業志向	2.0	1.8

6. 今後の取組

これまで3期にわたって川西能勢口駅周辺及びキセラ川西の2つの大きな拠点について、様々なにぎわい創出事業の実施により活性化を図ってきた。その結果、令和6年度には、歩行者・自転車通行量（休日）が目標値を上回る成果を上げることができる等、中心市街地におけるにぎわいがさらに向上している。

今後は、川西能勢口駅東側エリアにある2つの拠点以外にも、特徴的な店舗が並ぶ活性化ポテンシャルのあるエリアが存在するほか、旧文化会館跡地には、民間事業者により「こどもも集える場」が整備される計画があるなど、新たな活性化の種も存在しており、これらの活性化の機運をいかしつつ、更なるにぎわい創出につなげていくためにも、中心市街地に点在する特徴的なエリアごとにゾーニングを行い、そのゾーンごとににぎわいを創出し、中心市街地全体の活性化を底上げしていくことが必要である。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
恒常的なにぎわいが生まれる持続可能なまちを創造する	歩行者・自転車通行量（休日）	44,177 人/日 (H30)	46,547 人/日 (R7)	37,238 人/日 (R7)	48,389 人/日	R7.10	A
	中心市街地の居住人口の社会増	126 人/年 (H27-30 平均)	194 人/年 (R2-7 平均)	155 人/年 (R2-7 平均)	187 人/年 (R2-7 平均)	R8.3	B1
魅力ある場所や、活躍する人が生まれるまちを創造する	新規起業者数	4 人/年 (H30)	22 人/年 (R7)	18 人/年	51 人/年	R8.3	A
	新規出店数	5 店/年 (H30)	30 店/年 (R7)	24 店/年	49 店/年	R8.3	A

< 達成状況の分類 >

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

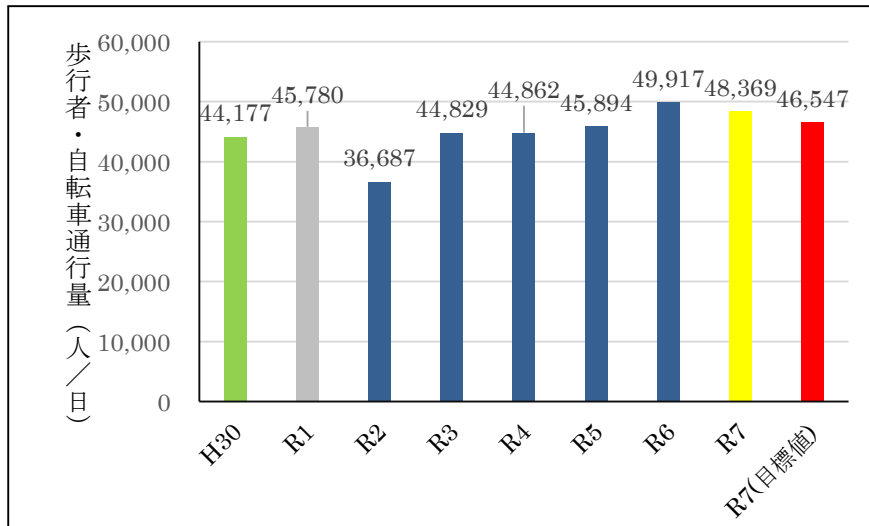
※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、英字を小文字にして英数字に下線を引いて下さい。（例：a、b1、b2、c）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「歩行者・自転車通行量（休日）」（目標の達成状況【A】）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 75～P. 79 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H30	44,177 人/日 (基準年値)
R1	45,780 人/日 (計画前年度)
R2	36,687 人/日
R3	44,829 人/日
R4	44,862 人/日
R5	45,894 人/日
R6	49,917 人/日
R7	48,369 人/日
R7	46,547 人/日 (目標値)

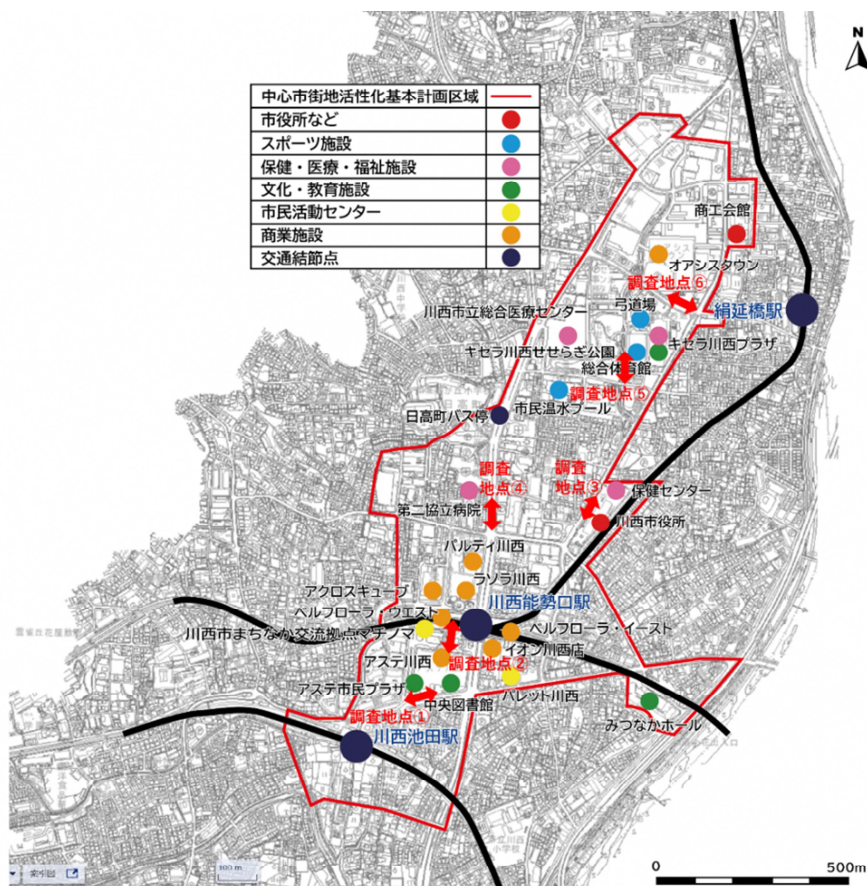
※調査方法： 歩行者・自転車通行量調査

※調査月： 毎年10月実施

※調査主体： 川西市中心市街地活性化協議会

※調査対象： 中心市街地における休日6地点の歩行者及び自転車数

【歩行者・自転車通行量調査地点】



(単位：人)

	平成30年度 (基準年)	令和元年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
地点①	11,120	11,220	9,162	10,800	10,629	10,869	12,117	13,548
地点②	20,924	20,547	17,751	22,803	23,247	24,579	28,089	25,461
地点③	2,039	2,718	2,832	3,135	2,973	2,370	3,036	2,430
地点④	1,934	2,847	2,544	3,117	2,922	2,733	2,670	3,207
地点⑤	—	—	1,953	1,251	1,371	1,029	705	687
地点⑥	—	—	2,445	3,723	3,720	4,314	3,300	3,036
合計	36,017	37,332	36,687	44,829	44,862	45,894	49,917	48,369

※地点⑤、地点⑥は令和2年度から新たに追加したため、平成30年度と令和元年度は空白。

〈分析内容〉

歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業の進捗は、当初の計画どおりに進捗し、令和6年度と比較すると天候の影響で減少したものの、歩行者・自転車通行量の合計は基準年と比較すると増加し、目標値を大きく上回る数値となった。

地点②の川西能勢口駅南の歩行者デッキでは、デッキ上で音楽や食事、雑貨販売を行う社会実験「駅前ピクニックマルシェ」の定期的な実施で来場者が着実に増加して滞留を生んでいるほか、

駅前商業施設内にぴいぷう広場がリニューアル整備され、子育て世代を中心に滞在性が生じて

り、最も通行量が多い地点となっている。

地点①のアステ川西南側の歩行者デッキについては、地点②に次ぐ通行量の多さで、毎年増加傾向にあり、令和7年度は本計画期間で最高値を記録した。

一方、川西能勢口駅とキセラ川西エリアの間に位置する地点③⑤⑥では、歩行者通行量が減少している。主な要因としては、各目的地へ自動車などを使って向かう層が増えていることが影響していると考えられる。

令和8年度以降の中心市街地未利用財産利活用検討事業の動向などのインフラの充実、市や中心市街地活性化協議会による各種事業などソフト事業の更なる強化による居住人口及び来街者の増加の動向を一定期間把握する必要があると考える。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 51：グリーンスローモビリティ導入事業（民間事業者、川西市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	川西能勢口駅周辺とキセラ川西地区の回遊性向上を図るために、グリーンスローモビリティの運行について検討する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】640人増加 【最新値】現在算定0人増加 令和4年度は、まちなか滞留実感調査（インタビュー調査）を行った結果、約75%が有料なら利用しないと回答し、現状ニーズが低い。
達成した（出来なかった）理由	まちなか滞留調査などの結果、キセラ川西と川西能勢口駅の双方を行き来する来街者が少なく、回遊性がないことが明らかとなり、両にぎわい拠点間の回遊性を向上させる事業を実施せずとも、歩行者・自転車通行量は増加した。
計画終了後の状況及び事業効果	キセラ川西と川西能勢口駅を回遊させる事業を実施せずとも、それぞれのエリアの特徴を活かしたにぎわいづくりができています。第4期計画で示している通り、特徴的なエリアをゾーニングし、そのゾーンにあった活性化をしていくことで全体の活性化を進めていく。
事業の今後について	エリア全体の活性化を行う中で、今後、中心市街地内の移動に関わる課題やニーズがあるのかを見極め、必要な検討をしていきたいと考えているため、「中心市街地公共交通検討事業」を引き続き実施し、効果的な交通施策の実現を目指す。

②. 6：市立総合医療センターキセラ川西センター整備事業（民間事業者、川西市）

事業実施期間	令和2年度～令和4年度【済】 [認定基本計画：令和2年度～令和4年度]
--------	--

事業概要	将来にわたり、市民に安心して安全な医療を提供していくため、市北部から市立川西病院を移設する。その結果としてキセラ川西地区の都市機能が増進することで、安心して暮らせるまちを創造する。
国の支援措置名及び支援期間	公立病院の再編・ネットワーク化に関する財政措置（総務省）（令和2年度～令和4年度） [認定基本計画：公立病院の再編・ネットワーク化に関する財政措置（総務省）（令和2年度～令和4年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】2,700人増加 【最新値】現在算定676人増加 令和2年度からキセラ川西地区にて建築工事を施工し、令和4年9月に開院した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和4年度に工事、開院が完了。事業目標値には届かなかったものの、毎年増加傾向にある。外来者の受け入れ数の観点から、妥当な人数であるとする。
計画終了後の状況及び事業効果	当該事業が完了し、目標指標とした外来患者数の目標達成には至らなかったが、患者数としては毎年増加傾向であり、本事業の効果と考えられる。
事業の今後について	指定管理者とともに、小児・周産期・救急医療などの政策医療を担うとともに、質の高い医療の提供を行う。

③. 10:花屋敷団地建替事業（川西市）

事業実施期間	令和元年度～令和4年度【済】
事業概要	老朽化が進む花屋敷団地の建て替えを行い魅力的な景観など、住環境を向上させることで、新たな居住者が入居し、定住人口の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（公営住宅等整備事業））（国土交通省）（令和元年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 $(60 \text{ 戸} \times 2.42 \text{ 人}) \times 48.1\% \times 3 \times 2 \div 420 \text{ 人増加}$ 【最新値】 $83 \text{ 戸} \times 2.42 \text{ 人} \times 48.1\% \times 3 \times 2 \div 579 \text{ 人増加}$ 当初の計画通り、令和4年度に2次本移転が完了し、10月末に竣工した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和4年度に移転が完了し同10月末に竣工。住環境が整備され、新たな居住者が入居し、定住人口が増加したことから、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	計画期間中に新たに転居して来た人が、中心市街地エリアのさまざまな拠点へ行き来しており、歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。
事業の今後について	計画通り令和4年度で事業が完了した。今後は、空室の入居を進め、居住者の増加によるにぎわいの創出を図る。

④. 11：民間マンション建設事業（民間事業者）

事業実施期間	令和２年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の未利用地に民間のマンションが整備されることで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 $(80 \text{ 戸} \times 2.42 \text{ 人}) \times 48.1\% \times 3 \times 2 \div 560 \text{ 人増加}$ 【最新値】 $(163 \text{ 戸} \times 2.42 \text{ 人}) \times 48.1\% \times 3 \times 2 \div 1,138 \text{ 人増加}$ キセラ川西地区での民間マンションの建設はいったん落ち着き、令和７年度は中心市街地に新たに完成した民間マンションは８棟であった。
達成した（出来なかった）理由	計画期間中に多くの民間マンションが完成したことで、中心市街地を行き来する人が増え、エリア全体の歩行者・自転車通行量が増加した。
計画終了後の状況及び事業効果	第３期計画終了後も新たな民間マンションの建設が続いている。計画期間中に民間マンションへ転居して来た人が、中心市街地エリアのさまざまな拠点へ行き来しており、歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。
事業の今後について	キセラ川西地区の民間マンションの建設はいったん落ち着いたものの、中心市街地の地価は高水準を維持しており、今後も順次民間マンションの建設が見込まれる。

⑤. 25：藤ノ木さんかく広場北側ポケットパーク活用事業（民間事業者、中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	藤ノ木さんかく広場と隣接しているポケットパークを道路管理者と連携し、広場の利用と合わせて一体的に活用することで相乗的なにぎわい創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】1,200 人増加 【最新値】基準年比地点③391 人+地点④1,273 人=1,664 人増加 北側ポケットパークを認定道路区域外としたことにより、普通財産として藤ノ木さんかく広場とより一体的に活用できるようになり、北側ポケットパークを活用したイベント実施を、より円滑かつ効果的に行うことが可能となった。 また、藤ノ木さんかく広場北側ポケットパークの活用したイベント

	を1回実施し、延べ参加者数は800人であった。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、一体的に広場を活用できるようになったことから、大規模なイベント実施もできるようになり、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	平日はキッチンカーが来場し、平日の夜や休日にはイベントが実施されるなど、日常的なにぎわいが広がっている。
事業の今後について	藤ノ木さんかく広場北側ポケットパークが普通財産となったことで、藤ノ木さんかく広場とより一体的な活用が可能となり、大規模なイベントの受け入れも見込まれる。今後は企業への利用促進や市民の日常利用など、幅広い利活用を目指す。

⑥. 24: ペDESTリアンデッキにぎわい活用事業（民間事業者、中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	歩行者は多いもののこれまで有効活用されていなかった川西能勢口駅と駅前商業施設をつなぐ道路空間で道路管理者と連携し、にぎわいイベントを実施することで、周辺施設への集客や来街者の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】500人×2地点×2回≒2,000人増加 【最新値】基準年比地点①2,428人+地点④1,273人=3,701人増加 川西市中心市街地活性化協議会が「駅前ピクニックマルシェ」などの路上イベントを14件の道路占用許可を申請し許可を得た。また、イベント実施団体、民間事業者や公的機関など9団体が23件の道路占用許可を申請し許可を受けた。開催された路上イベントにより中心市街地活性化に寄与した。
達成した（出来なかった）理由	道路管理者と連携し、令和7年度にガイドラインの策定が完了したことで、多様な主体によるにぎわいイベントの実施等のペDESTリアンデッキの活用が進み、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	路上イベント等への「弾力的な道路占用許可」については、産業振興課との連携した取り組みが認知されてきたこともあり、許可件数が増加傾向にあり、まちのにぎわい創出に寄与している。
事業の今後について	令和8年度は、川西市中心市街地活性化協議会が「駅前ピクニックマルシェ」等を計10回開催予定である。また、今後のペDESTリアンデッキでのイベント開催について、道路管理者と「路上イベントに関するガイドライン（案）」を策定しており、今後の活動に寄与する。

⑦. 3:都市計画道路豊川橋山手線整備事業（川西市）

事業実施期間	平成 26 年度～令和 4 年度【済】
事業概要	キセラ川西地区から絹延橋を結ぶ道路及び歩道の拡幅に合わせ、踏切拡幅することで、通行の安全確保とキセラ川西地区へのアクセス向上を図り、中心市街地全体の回遊性向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路））（国土交通省）（平成 26 年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】目標積算記載なし 【最新値】令和 2 年度比地点⑥591 人増加 過年度に引き続き、道路拡幅工事を実施した。令和 4 年 7 月に工事を完了し、供用開始した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、中心市街地の交通環境が整ったことから、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	歩行者等の快適な通行と安全・安心な空間を創出したため、中心市街地の交通環境を整えることが出来た。
事業の今後について	近隣小学校への通学路として、通学児童の安全を確保するとともに、キセラ川西地区への接続道路として、まちの活性化に寄与する。

⑧. 4:市道 1313 号（日高町地内）改良事業（川西市）

事業実施期間	令和元年度～令和 4 年度【済】
事業概要	市道 1313 号の道路拡幅を行うことで、歩行者等の快適な通行と安全・安心な空間を創出することで、中心市街地の交通環境を整える。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業）（国土交通省）（令和 2 年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】目標積算記載なし 【最新値】令和 2 年度比地点⑤▲1,266 人増加 歩道整備工事を実施し、令和 4 年 9 月の市立総合医療センターの開院に合わせて、工事を完了した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、中心市街地の交通環境が整ったことから、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	歩行者等の快適な通行と安全・安心な空間を創出したため、中心市街地の交通環境を整えることが出来た。
事業の今後について	市立総合医療センターへのアクセス道路として来院する方の安全確保及び緊急車両等の円滑な交通の確保を担う。

⑨. 5:市道 3 号（中央町地内）改良事業（川西市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
--------	----------------

事業概要	都市計画道路鶴之荘花屋敷線の歩道整備を行うことで、歩行者等の快適な通行と安全・安心な空間を創出することで、中心市街地の交通環境を整える。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（街路））（国土交通省）（平成 30 年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】目標積算記載なし 【最新値】令和 2 年度比地点③▲402 人増加 未整備区間の用地交渉を行い、事業用地の確保に努めている。
達成した（出来なかった）理由	一部を除き概ね当該事業は当初の計画どおりに進捗し、中心市街地の交通環境が整ったことから、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	都市計画道路鶴之荘花屋敷線の歩道整備が概ね完成し、歩行者等の快適な通行と安全・安心な空間を創出したため、中心市街地の交通環境を整えることが出来た。
事業の今後について	引き続き未整備区間の用地交渉を行い、事業用地の確保に努める。

⑩. 55: 清和源氏まつり（清和源氏まつり実行委員会、川西市観光協会、川西市）

事業実施期間	令和 3 年度～【実施中】
事業概要	本市の歴史的な観光行事「清和源氏まつり」をキセラ川西せせらぎ公園など中心市街地において実施することで、中心市街地ににぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年度～令和 6 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】目標積算記載なし 【最新値】令和 2 年度比地点③▲402 人増加 第 6 2 回清和源氏まつりを令和 8 年 4 月 1 2 日に開催。約 23,000 人観客が訪れ、本計画が定める成果指標の達成に寄与した。これに合わせてキセラ川西せせらぎ公園でのイベント開催やパンフレットの配布を行うことにより、来街者の継続的な再訪の増加につなげることで、中心市街地ににぎわいを創出した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、イベントによる来街者の継続的な再訪に繋がったことから、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	キセラ川西せせらぎ公園など中心市街地においてイベントを実施することで、中心市街地に賑わいを創出できた。
事業の今後について	今後も継続してせせらぎ公園での出店やステージイベントを開催し、観覧者数の増加と中心市街地でのにぎわいの創出を目指す。

⑪. 60: 駅前中心市街地活動拠点整備運営事業（川西市中心市街地活性化協議会、川西市）

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	川西能勢口駅前の市民トイレを改修し、活動拠点を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（令和4年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和4年度に川西能勢口駅前にある市民トイレを改修し、中心市街地のイベント情報の集約・発信やプレイヤーの活動拠点とする整備事業が完了した。
達成した（出来なかった）理由	令和5年度から「まちなか交流拠点マチノマ」として開室し、中心市街地のイベント情報の集約・発信や、プレイヤーの活動拠点として機能しており、ペDESTリアンデッキや周辺商業施設との回遊を促進するなど、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	令和7年度の来室者数は4,451人／年、活用回数は279回／年となり、年々増加傾向にある。多様な相談会や交流会を実施し、まちなかプレイヤーの発掘・育成にも努めている。
事業の今後について	引き続き活動拠点を運営し、中心市街地内の各活動の活性化を図る。また、ペDESTリアンデッキにぎわい活用事業と連携し、相乗的にぎわい創出を図る。

⑫. 61: JR 川西池田駅-阪急川西能勢口駅連絡橋屋根更新工事（川西市）

事業実施期間	令和5年度【済】
事業概要	JR 川西池田駅から阪急川西能勢口駅を結ぶ連絡橋の屋根を新しく更新することで、歩行者の快適な通行と安全性を向上させ、中心市街地全体の回遊性向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和5年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和5年度に屋根更新工事を実施し、令和5年12月に工事を完了した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、中心市街地の交通環境が整ったことから、歩行者通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	歩行者等の快適な通行と安全・安心な空間を創出したため、中心市街地の交通環境を整えることが出来た。
事業の今後について	引き続き適切な維持管理に努める。

⑬. 63: 川西市展（川西市）

事業実施期間	平成4年度～【実施中】
事業概要	芸術作品の公募展の実施

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和６年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和６年度、多くの芸術作品が出展され、キセラ川西プラザほかで展示された。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、中心市街地エリア内である川西能勢口駅構内のギャラリーかわにしへの来場を促すことで、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	新規出品者の参加も見られ、出品数は増加した。市の文化振興および駅構内のギャラリーかわにしのPRにもつながったため、中心市街地の活性化に寄与した。
事業の今後について	引き続き事業を実施し、合計の出品数の増加のため、周知方法の検討を行い、多くの人々の来街につなげていくことを目指す。

⑭. 64：市制70周年記念事業（川西市）【令和５年度追加】

事業実施期間	令和６年度～【実施中】
事業概要	川西能勢口駅周辺での地域事業者との連携による合同販促イベントやキセラホールでの記念コンサート及びキセラ川西せせらぎ公園周辺での秋の味覚を楽しむイベントなどを実施する。また、川西能勢口駅周辺の施設の壁面などに様々な魚が遊泳しているデザインを用いて、水族館を再現する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和６年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	「祝おう」「楽しもう」「繋げよう」「広げよう、伝えよう」のコンセプトに分類し周年事業を実施
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和６年度に市制70周年記念事業を実施し、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。また、市制70周年記念事業実施後においても、継続的に大型LEDビジョンを活用したシティプロモーション等を行うことで、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	地域事業者と連携したイベント、記念コンサート、水族館イベントを実施し、これまで以上に幅広い世代が中心市街地に足を運ぶ機会を創出できた。これにより交流人口の増加や活気あふれる空間の維持に寄与したと考える。
事業の今後について	今後も引き続き、大型LEDビジョンを利用し、市のプロモーション、防災情報の発信などを行い、更なる集客、来街につながるようPRなどの強化に努める。

⑮. 65：川西市コミュニティパーク整備事業（川西市）【令和６年度追加】

事業実施期間	令和６年度【済】
--------	----------

事業概要	駅前商業施設内に多世代が交流できる場として「コミュニティパーク」を整備する。また、市の様々な情報発信のための大型ビジョンを設置する。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和6年度～）

事業目標値・最新値 及び進捗状況	令和6年度にコミュニティパークを整備し、各種イベントなども実施している。

達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和６年度にコミュニティパークの整備が完了し、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	雨天でも子どもが遊べるように整備され、近隣大型商業施設のリニューアルも相まって、日々多くの人でにぎわっている。イベント実施も盛んであり、まちなかプレイヤーの活動の場にもなっている。
事業の今後について	滞留性のあるコミュニティパークを活かして、更なる集客、来街につなげ、中心市街地でのにぎわいの創出を目指す。

⑩. 67：みつなかホール改修（川西市）【令和６年度追加】

事業実施期間	令和６年度【済】
事業概要	みつなかホールの空調設備の改修を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和６年度に改修を行い、令和７年４月から利用再開した。
達成した（出来なかった）理由	第３期計画を１年延長したことで、当該事業が計画どおりに進捗し、令和７年度より営業が再開したことから、ホールで開催されるイベントへの来場を促すことができ、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	営業再開後、市民の文化活動が再開され、ホールへの来場者数が例年と同等に回復し、中心市街地の活性化に寄与した。
事業の今後について	令和８年度に開館から３０年を迎えるため、ホール運営にあたり、修繕・改修をすすめる。

⑪. 69：総合体育館の大規模改修工事（川西市）【令和７年度追加】

事業実施期間	令和７年度～【実施中】
事業概要	今後長期的に施設を使用できるように、総合体育館の大規模改修工事を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和７年度：改修内容の設計 令和８年度：改修工事実施、３月末施工完了予定
達成した（出来なかった）理由	当該事業が計画どおりに進捗し、第４期計画で設定した歩行者・自転車通行量の達成に寄与することが見込まれる。
計画終了後の状況及び事業効果	大規模改修の実施により当該施設がリニューアルオープンすることでより多くの市民が施設を利用することが見込まれ、中心市街地の活性化に寄与すると見込まれる。

事業の今後について	令和9年4月からリニューアルオープンを予定している。
-----------	----------------------------

⑩. 17:猪名川花火大会（川西市、池田市、猪名川花火大会開催委員会）

事業実施期間	昭和23年度～【実施中】
事業概要	中心市街地に隣接する猪名川河川敷で猪名川花火大会を開催する。猪名川花火大会は北摂地域の一大イベントとして川西市と池田市が共催し、川西市には約6万人が訪れており、その多くは中心市街地にある川西能勢口駅や川西池田駅を利用し、駅前の商業施設で買い物していることに加え、商店街団体がイベントを実施するなど、波及効果を生むことによって、中心市街地ににぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年度～令和8年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	花火大会開催に要する経費が安全対策の強化や物価高騰の影響などにより年々増加していることから、隔年開催（2年に1回）となったため、令和7年度の開催はなかった。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、イベントによる来街者の継続的な再訪に繋がったことから、歩行者・自転車通行量の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地に隣接する猪名川河川敷でイベントを実施することで、駅周辺の通行量が増加し、近隣商業施設等への波及効果もあり、中心市街地ににぎわいを創出できた。
事業の今後について	今後も隔年で開催を継続し、打ち上げ時間を早めることでイベント終了後の来街者の駅周辺商業施設などでの消費を喚起し、来街者の再訪増加と中心市街地でのにぎわいの創出を目指す。

●今後の対策

歩行者・自転車通行量の増加に向けた事業について、主要事業は概ね予定通り進んでおり、各種事業の成果も出始めたことで、歩行者・自転車通行量の合計は目標値を上回る数値となった。

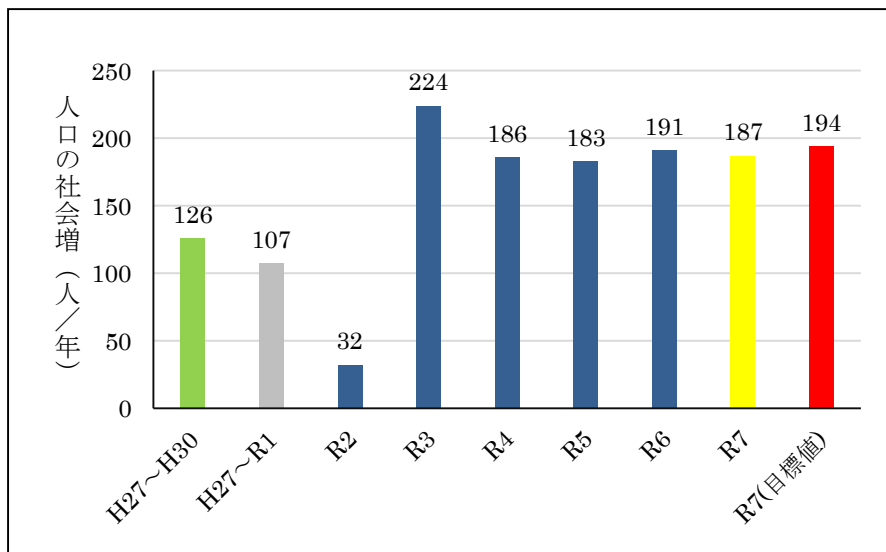
第3期計画までは、川西能勢口駅周辺とキセラ川西への回遊性を測ることを目的に調査地点を設定していたが、第4期計画では、エリアの特徴を踏まえたゾーニングによる新たなにぎわい拠点を創造していくことが基本方針であることから、各ゾーンのにぎわいを測るために調査地点を変更している。

今後は、新たににぎわい拠点が生まれる仕組みづくりを進め、エリア全体の活性化を進めていくことで、歩行者・自転車通行量の増加を図り、中心市街地全体の更なる来街者増加につながるよう、事業を推進していく。

（2）「中心市街地の居住人口の社会増」（目標の達成状況【 B1 】）

※目標設定の考え方認定基本計画 P.80～P.81 参照

●調査結果と分析



※調査方法：住民基本台帳データから毎年度の人口社会増を集計

※調査月：毎年3月31日現在

※調査主体：川西市

※調査対象：中心市街地エリア

年	(単位)
H30	126 人/年 (H27~H30 平均) (基準年値)
R1	107 人/年 (H27~R1 平均) (計画前年度)
R2	32 人/年 (R2~R7 平均)
R3	224 人/年 (R2~R7 平均)
R4	186 人/年 (R2~R7 平均)
R5	183 人/年 (R2~R7 平均)
R6	191 人/年 (R2~R7 平均)
R7	187 人/年 (R2~R7 平均)
R7	194 人/年 (R2~R7 平均) (目標値)

〈分析内容〉

中心市街地の居住人口の社会増に向けた各事業は、概ね予定通り進んだが、目標 194 人/年 (R2~R7 平均) に対して、実績 187 人/年 (R2~R7 平均) と僅かに届かなかった。市内全体の居住人口が少子高齢化による減少傾向が続いている中で、中心市街地の居住人口については、増加傾向を維持できている。対象 10 地域を地域別に分けて傾向をみると、中央町が最も大きな社会増を計上しており、各種にぎわい創出事業の実施によるエリア価値向上の結果、令和 7 年度に民間マンションが完成し、以後転入が緩やかに続いたことが主要因と考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 10: 花屋敷団地建替事業 (川西市)

事業実施期間	令和元年度～令和 4 年度【済】
事業概要	老朽化が進む花屋敷団地の建て替えを行い魅力的な景観など、住環境を向上させることで、新たな居住者が入居し、定住人口の増加を図る。
国の支援措置名及	社会資本整備総合交付金 (地域住宅計画に基づく事業 (公営

び支援期間	住宅等整備事業)) (国土交通省) (令和元年度～)
事業目標値・最新値 及び進捗状況	【事業目標値】 60 戸 × 2.42 人 ≒ 146 人 【最新値】 83 戸 × 2.42 人 × 48.1% × 3 × 2 ≒ 579 人増加 当初の計画通り、令和 4 年度に 2 次本移転が完了し、10 月末に竣工した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和 4 年度に移転が完了し同 10 月末に竣工。住環境が整備され、新たな居住者が入居し、定住人口が増加した。
計画終了後の状況 及び事業効果	計画期間中に新たに転居して来た人が、中心市街地エリアのさまざまな拠点へ行き来しており、歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。
事業の今後について	計画通り、令和 4 年度で事業が完了した。今後は、空室の入居を進め、居住者の増加によるにぎわいの創出に寄与する。

②. 11：民間マンション建設事業（民間事業者）

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の未利用地に民間のマンションが整備されることで、中心市街地の居住人口の増加を図り、にぎわいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値 及び進捗状況	【事業目標値】 (80 戸 × 2.42 人) × 48.1% × 3 × 2 ≒ 560 人増加 【最新値】 (163 戸 × 2.42 人) × 48.1% × 3 × 2 ≒ 1,138 人増加 キセラ川西地区での民間マンションの建設はいったん落ち着いた、令和 7 年度は中心市街地に新たに完成した民間マンションは 8 棟であった。
達成した（出来なかった）理由	計画期間中に多くの民間マンションが完成したことで、中心市街地を行き来する人が増え、エリア全体の歩行者・自転車通行量が増加した。
計画終了後の状況 及び事業効果	第 3 期計画終了後も新たな民間マンションの建設が続いている。計画期間中に民間マンションへ転居して来た人が、中心市街地エリアのさまざまな拠点へ行き来しており、歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。
事業の今後について	キセラ川西地区の民間マンションの建設はいったん落ち着いたものの、中心市街地の地価は高水準を維持しており、今後も順次民間マンションの建設が見込まれる。

③. 7:川西北幼稚園・川西北保育所の一体化施設整備（川西市）

事業実施期間	令和元年度～令和 3 年度【済】
--------	------------------

事業概要	質の高い教育・保育サービスを提供するため、川西北幼稚園と川西北保育園の一体化を進め、幼保連携型認定こども園を整備することで、子育て世代を中心に市街地に呼び込み、定住人口の増加をめざす。
国の支援措置名及び支援期間	学校施設環境改善交付金（令和２年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】目標積算記載なし 【最新値】まちなか滞留・実感調査 令和２年度比 「ここで暮らしてみたいと感じる」4.6%増加 令和４年４月１日より、川西市立川西北こども園（幼保連携型認定こども園）を開設することができた。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和４年度に川西市立川西北こども園の開設が完了した。中心市街地の地価は毎年上昇しており、人口も増加していることから、当該事業は、エリアの魅力向上に寄与していると考えられる。
計画終了後の状況及び事業効果	令和４年度の開設後は、子育て世代を中心に市街地に呼び込むために、質の高い教育・保育サービスを提供できるよう努めている。
事業の今後について	本一体化施設整備については完了となったが、引き続き子育て世代の利用を促進し、定住人口の増加に努めていく。

④. 57: 中心市街地未利用財産利活用検討事業（川西市）【令和５年度追加】

事業実施期間	令和６年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の市有未利用財産の市場調査等を実施し、民間への貸付や売却も含む中長期的・効果的な利活用を検討し、区域内の都市機能の増進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和６年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和６年度に未利用資産の利活用について、民間事業者から意見を聞くためのサウンディング調査を実施し、旧文化会館等跡地については、公募型プロポーザルを行い、地域密着型スーパー、ファーストフード店等の提案があった事業者に決定した。現在は、事業用定期借地契約を締結し解体工事中。 旧分庁舎跡地については、現在公募型プロポーザル方式にて事業者を選定中。事業者決定後は土地売買契約を締結する。
達成した（出来なかった）理由	旧文化会館等跡地については、予定通りプロポーザルが実施され、現在解体工事中であり、旧分庁舎跡地については、現在公募型プロポーザル方式にて事業者選定中であることから、第３期計画期間での目標達成の寄与には至らなかったが、第４期計画で設定した目標指標の達成に寄与することが見込まれる。
計画終了後の状況	公募型プロポーザルでの事業者の提案で商業施設等の建設を予定さ

及び事業効果	れており、居住人口の社会増や歩行者・自転車通行量の増加に繋がるものであり、中心市街地の活性化に寄与するものとする。
事業の今後について	事業者決定後、事業提案内容が遵守されるように、事業者と協議を重ね、中心市街地の活性化に貢献していく。

⑤. 62：中心市街地未利用地民間活用事業（川西市）【令和5年度追加】

事業実施期間	令和6年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内に存置している未利用財産（建物）を解体し、民間事業者へ更地を貸付又は売却することで未利用財産の効果的な活用を行い、区域内の都市機能の増進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和6年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和6年度に未利用資産の利活用について、民間事業者から意見を聞くためのサウンディング調査を実施し、解体の必要性について検討を行った。その結果、市で解体を行わず、解体条件付きで公募型プロポーザルを行っている。
達成した（出来なかった）理由	令和7年度より、解体条件付きで公募型プロポーザルを行ったため、現状未利用財産の効果的な活用はできていないが、事業者から提案をいただき、今後の方向性は決定している。そのため、第3期計画期間での目標達成の寄与には至らなかったが、第4期計画で設定した目標指標の達成に寄与することが見込まれる。
計画終了後の状況及び事業効果	今後、未利用財産を有効活用するために、土地を活用する事業者が建物解体を行う。公募型プロポーザルでの事業者の提案は、居住人口の社会増や歩行者・自転車通行量増加に繋がるものであり、中心市街地の活性化に寄与するものとする。
事業の今後について	今後については、解体を市で行うか、事業者が行うかも含めて未利用財産の効果的な活用ができるように方向性を決定していく。

⑥. 65：川西市コミュニティパーク整備事業（川西市）【令和6年度追加】

事業実施期間	令和6年度【済】
事業概要	駅前商業施設内に多世代が交流できる場として「コミュニティパーク」を整備する。また、市の様々な情報発信のための大型ビジョンを設置する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業（総務省）（令和6年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和6年度に雨天でも子どもが遊べるよう遊具を設置し、子育て世代を中心に多様な方々が集い憩えるコミュニティパークを整備し、各種イベントなども実施している。
達成した（出来なか	当該事業は当初の計画どおりに進捗、令和6年度にコミュニティパ

った) 理由	一々の整備が完了し、多世代が集う場となり、にぎわいの創出に大きく寄与している。
計画終了後の状況及び事業効果	雨天でも子どもが遊べるように整備され、近隣大型商業施設のリニューアルも相まって、日々多くの人でにぎわっている。イベント実施も盛んであり、まちなかプレイヤーの活動の場にもなっている。
事業の今後について	滞留性のあるコミュニティパークを活かして、更なる集客、来街につなげ、中心市街地でのにぎわいの創出を目指す。

●今後の対策

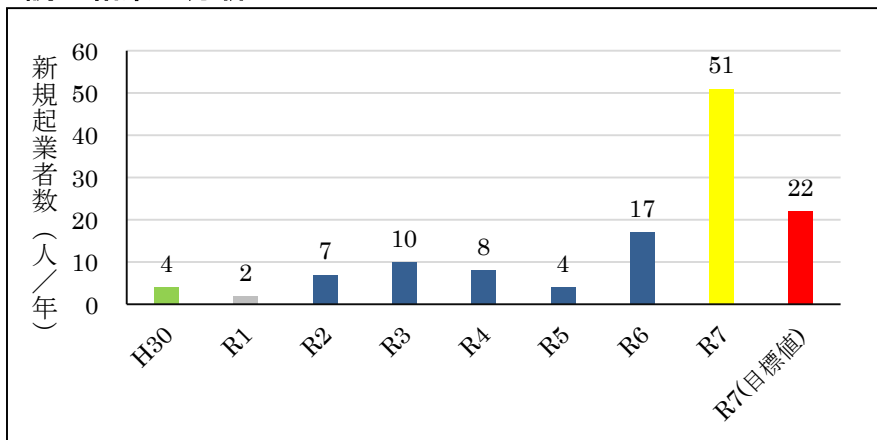
人口の社会増に向けた主要事業は予定通り進捗しており、花屋敷団地建替事業等で住環境の整備が整った他、中心市街地の地価の上昇にも反映されているように、土地としての価値は上昇しており、今後も順次民間マンションの建設が見込まれ、引き続き転入者が増加することが予想される。

今後は、転入者数の増加傾向が続くよう、中心市街地未利用地民間活用事業などの各種事業を通じて、更なる社会増を目指す。

(3)「新規起業者数」(目標の達成状況【 A 】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 82～P. 83 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H30	4 人 (基準年値)
R1	2 人 (計画前年度)
R2	7 人
R3	10 人
R4	8 人
R5	4 人
R6	17 人
R7	51 人
R7	22 人 (目標値)

※調査方法： 経済センサスによる調査、市及び市商工会での聞き取り調査

※調 査 月： 毎年 3 月 31 日現在

※調査主体： 川西市

※調査対象： 中心市街地エリアにおける小売業及び宿泊・飲食サービス業で新規に起業した者

〈分析内容〉

中心市街地空き店舗等出店支援事業や、令和 7 年度よりスタートしたコワーキングスペース連携起業者支援事業のほか、市や商工会による各種起業家支援などの効果が発現しはじめたことにより新規起業者を着実に輩出しており、新規起業者数は大幅に増加した。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 21:コワーキングスペース運営支援事業（民間事業者、川西市）

事業実施期間	令和2年度～【済】
事業概要	起業をめざしている者や既に起業している者などが集まれる場を提供することで、市内での起業を増やすなど、まちに新たな仕事を創出し、中心市街地の活力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度～令和3年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】利用者数 500 人×想定企業割合 2%=10 件 【最新値】●人×2%=●件 令和6年度は4月から2月までの間、令和3年度に「コワーキングスペース開設支援事業」として採択した事業者、家賃や人件費、通信回線使用料の一部の補助を行い、コワーキングスペースの運営を支援した。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和7年度からは、中心市街地活性化協議会とコワーキングスペースが連携したセミナーや交流会を実施したことで、起業家やこれから起業する人のコミュニティが形成され、新規出店数の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	令和7年度に、家賃や人件費、通信回線使用料の補助は終了したが、自立した経営を行っており、中心市街地活性化協議会などと連携してイベントを実施することで、起業をめざしている者や既に起業している者などが集まれる場となっている。
事業の今後について	家賃等の費用の一部の補助は令和7年度で完了したが、市内コワーキングスペースと連携してセミナー等を開催し、起業家の増加や継続・発展の場の充実につなげる。

②. 13:中心市街地空き店舗等出店支援事業（川西市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の空き店舗に出店する事業者に対し、開店の支援を行うとともに、事業が継続できるよう家賃の一部の補助を行うことで、中心市街地に魅力的な店舗を呼び込む。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年度～令和6年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】出店支援対象者＝年間3件 【最新値】新規出店者＝年間1件 中心市街地に小売業や飲食店の店舗を新規に出店しようとする事業者に対して、改装費や開店後6か月経過後から1年分の家賃の一部を補助する「中心市街地空き店舗等出店支援補助金」を実施し、3件の事業者を採択し、補助を実施した。
達成した（出来な	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、計画期間中に9件の、申請

かった)理由	があり、新規起業者数の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	令和8年度についても「中心市街地空き店舗等出店支援補助金」を実施し、引き続き新規出店をしようとする事業者を募集している。また、本補助金を活用して新規出店した事業者が、エリア内のにぎわい拠点となりイベントを開催するなどの動きも見受けられる。
事業の今後について	引き続き中心市街地に小売業や飲食店の店舗を新規に出店しようとする事業者に対して、改装費や開店後6か月経過後に1年分の家賃の一部を補助し、新規起業者数の増加につなげていく。

③. 14: 中心市街地起業者支援事業（川西市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で新たに起業する者、起業間もない者に対し、セミナーの実施や、悩み相談などのフォローアップを行うことで、事業継続への支援を行い、まちで活躍する人を育成する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和2年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和2年度～令和6年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】起業塾参加者20人×25%=5件 【最新値】3.5件 オンラインを活用したセミナーを中心に、14名の塾生がセミナーを通じて起業に必要な知識を身に付けた。また起業入門セミナーは、女性限定でなく、男性も対象とすることで、性別に関係なく起業希望者の支援を行った。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、計画期間内で合計64名がセミナーを受講。過去の塾生に対しても面談等でフォローアップを実施したこと等から、新規出店数の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	令和8年度についても受講生を募集し、引き続き起業セミナーを実施している。卒業生によるコミュニティも形成されており、中心市街地において共同でイベントを開催するなど、新規出店数の増加だけでなく、エリアのぎわいの創出にも繋がっている。
事業の今後について	引き続き起業セミナーを開催し、起業を希望する者の支援を行っていく。また、過去の塾生を対象としたスキルアップセミナーやフォローアップ面談を行うことで、新規起業者の増加につなげていく。

①⑥. 33: まちのプレーヤー発掘事業（川西市）

事業実施期間	令和7年度～【済】
--------	-----------

事業概要	タウンマネージャーが中心となり、まちの使い方や活性化をテーマに交流し、まちで活躍するプレイヤーを発掘する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和6年度に実施した、トークセッションでまちの活動への関心を深めつつ、交流会で参加者のコミュニティ化を図る「まちの学び舎かわにし」を、令和7年度は、よりビジネス層を対象とした事業に移行し、「LOCAL BUSINESS HUB かわにし」として実施。ビジネスパーソンとまちなかプレイヤーが学び合う、約100人のコミュニティが形成され、更なるプレイヤー発掘・育成を進めることができた。
達成した（出来なかった）理由	「LOCAL BUSINESS HUB かわにし」の参加者アンケートにおいて、「本事業をきっかけに、新たな一歩を踏み出した」と回答した人が75%（n=92人）おり、起業についての相談もあることから、新規起業家数の増加に寄与している。
計画終了後の状況及び事業効果	令和7年度事業が全回終了した後も、オンラインツールを通じて参加者同士の交流が続き、様々なイベントの実施・参加に繋がっており、市内各所でにぎわいを創出している。
事業の今後について	令和8年度も引き続き「LOCAL BUSINESS HUB かわにし」を開催、より実践的な学びができるアドバンスコースを新設し、更なるプレイヤー発掘・育成を進めていく。

①6. 68: コワーキングスペース連携起業家支援事業（川西市）【令和6年度追加】

事業実施期間	令和7年度～【実施中】
事業概要	市内コワーキングスペースと連携してセミナー等を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和7年度から、中心市街地活性化協議会とコワーキングスペースが連携したセミナーや交流会を実施し、起業家やこれから起業する人のコミュニティを形成した。
達成した（出来なかった）理由	中心市街地活性化協議会とコワーキングスペースが連携したセミナーや交流会を実施したことで、起業家やこれから起業する人のコミュニティが形成され、新規起業家数の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	令和7年度に、コワーキングスペース連携起業家支援事業を実施した結果、35人のLINEコミュニティが形成され、参加者の繋がりを維持できている。
事業の今後について	引き続き市内コワーキングスペースと連携してセミナー・交流会を開催し、コワーキングスペースを拠点とした起業家や起業希望者のコミュニティの形成を図ることで、新規起業家数の増加につなげていく。

●今後の対策

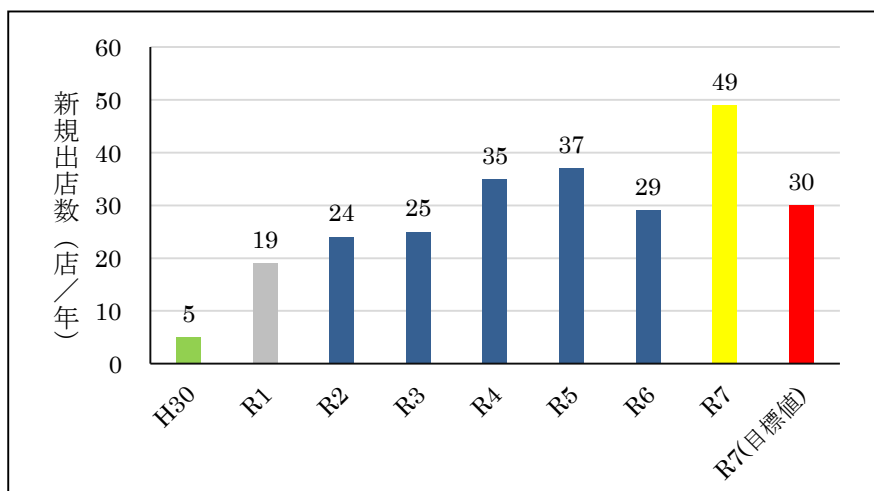
中心市街地空き店舗等出店支援事業、コワーキングスペース連携起業家支援事業のほか、市や商工会による各種起業家支援などの効果が発現し、新規起業家数は大幅に増加した。

今後は、令和7年度より中心市街地活性化協議会事業で開催されているコワーキングスペース連携事業やビジネスパーソンが学び合う場をつくる「LOCAL BUSINESS HUB かわにし」において、まちのプレイヤーの発掘・コミュニティ化を促進し、新規起業家数の底上げに繋げる。

(4)「新規出店数」(目標の達成状況【A】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 84～P. 85 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
H30	5 店 (基準年値)
R1	19 店 (計画前年度)
R2	24 店
R3	25 店
R4	35 店
R5	37 店
R6	29 店
R7	49 店
R7	30 店 (目標値)

※調査方法：川西市商工会及び川西市中心市街地活性化協議会への聞き取り調査及び目視調査

※調査月：毎年3月31日現在

※調査主体：川西市

※調査対象：中心市街地エリアにおける小売業及び宿泊・飲食サービス業で新規に出店した者

〈分析内容〉

中心市街地空き店舗等出店支援事業や中心市街地起業家支援事業の効果に加えて、大型商業施設のリニューアルオープンもあり、令和7年度は大幅に新規出店数が増加し、目標値を上回った。令和8年度以降も継続して各事業を実施することで、新規出店数は増加すると予想される。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 21:コワーキングスペース運営支援事業（民間事業者、川西市）

事業実施期間	令和2年度～【実施中】
事業概要	起業をめざしている者や既に起業している者などが集まれる場を提供することで、市内での起業を増やすなど、まちに新たな仕事を創出し、中心市街地の活力向上を図る。

国の支援措置名 及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和２年度～令和３年度）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	【事業目標値】利用者数 500 人×想定企業割合 2%＝10 件 【最新値】1,051 人×2%＝21 件 令和６年度は４月から２月までの間、令和３年度に「コワーキングスペース開設支援事業」として採択した事業者、家賃や人件費、通信回線使用料の一部の補助を行い、コワーキングスペースの運営を支援した。令和７年度からは、中心市街地活性化協議会とコワーキングスペースが連携したセミナーや交流会を実施し、起業家やこれから起業する人のコミュニティを形成した。
達成した（出来な かった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、令和７年度からは、中心市街地活性化協議会とコワーキングスペースが連携したセミナーや交流会を実施したことで、起業家やこれから起業する人のコミュニティが形成され、新規出店数の増加に寄与した。
計画終了後の状況 及び事業効果	令和７年度に、家賃や人件費、通信回線使用料の補助は終了したが、自立した経営を行っており、中心市街地活性化協議会などと連携してイベントを実施することで、起業をめざしている者や既に起業している者などが集まれる場となっている。
事業の今後につ いて	家賃等の費用の一部の補助は令和７年度で完了したが、市内コワーキングスペースと連携してセミナー等を開催し、起業家の増加や継続・発展の場の充実につなげる。

②. 13: 中心市街地空き店舗等出店支援事業（川西市）

事業実施期間	令和２年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の空き店舗に出店する事業者に対し、開店の支援を行うとともに、事業が継続できるよう家賃の一部の補助を行うことで、中心市街地に魅力的な店舗を呼び込む。
国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和２年度～令和６年度）
事業目標値・最新 値及び進捗状況	【事業目標値】出店支援対象者＝年間３件 【最新値】新規出店者＝年間１件 中心市街地に小売業や飲食店の店舗を新規に出店しようとする事業者に対して、改装費や開店後６か月経過後から１年分の家賃の一部を補助する「中心市街地空き店舗等出店支援補助金」を実施し、３件の事業者を採択し、補助を実施した。
達成した（出来な かった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、計画期間中に９件の、申請があり、新規出店数の増加に寄与した。
計画終了後の状況 及び事業効果	令和８年度についても「中心市街地空き店舗等出店支援補助金」を実施し、引き続き新規出店をしようとする事業者を募集している。また、本補助金を活用して新規出店した事業者が、エリア内のにぎ

	わい拠点となりイベントを開催するなどの動きも見受けられる。
事業の今後について	引き続き中心市街地に小売業や飲食店の店舗を新規に出店しようとする事業者に対して、改装費や開店後 6 か月経過後に 1 年分の家賃の一部を補助し、新規出店数の増加につなげていく。

③. 14: 中心市街地起業者支援事業（川西市）

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地で新たに起業する者、起業間もない者に対し、セミナーの実施や、悩み相談などのフォローアップを行うことで、事業継続への支援を行い、まちで活躍する人を育成する。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（令和 2 年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 2 年度～令和 6 年度）]
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 起業塾参加者 20 人×25%=5 件 【最新値】 3.5 件 オンラインを活用したセミナーを中心に、14 名の塾生がセミナーを通じて起業に必要な知識を身に付けた。また起業入門セミナーは、女性限定でなく、男性も対象とすることで、性別に関係なく起業希望者の支援を行った。
達成した（出来なかった）理由	当該事業は当初の計画どおりに進捗し、計画期間内で合計 64 名がセミナーを受講。過去の塾生に対しても面談等でフォローアップを実施したこと等から、新規起業家数の増加に寄与した。
計画終了後の状況及び事業効果	令和 8 年度についても受講生を募集し、引き続き起業セミナーを実施している。卒業生によるコミュニティも形成されており、中心市街地において共同でイベントを開催するなど、新規起業家数の増加だけでなく、エリアのぎわいの創出にも繋がっている。
事業の今後について	引き続き起業セミナーを開催し、起業を希望する者の支援を行っていく。また、過去の塾生を対象としたスキルアップセミナーやフォローアップ面談を行うことで、新規起業家の増加につなげていく。

●今後の対策

中心市街地空き店舗等出店支援事業により、小売業、飲食業の出店支援を行ったことや大型商業施設のリニューアルオープンにより、目標値を大きく上回る新規出店があった。今後も引き続き、市広報誌や SNS の活用、商工会等関係施設との連携などによって、各事業の周知を進めながら継続して実施することで、持続的な活性化に向けた更なる新規出店強化策を実施していく必要がある。